

政策推進「10の政策分野」の施策

健康・余暇

- 脳卒中などの生活習慣病対策
- 保健医療提供体制の整備や地域包括ケアシステムの構築
- 文化芸術に触れる機会の提供
- スポーツを楽しめる環境整備

教育

- 児童生徒の確かな学力の向上、豊かな人間性・社会性・健やかな体の育成
- 地域を支える人材や、地域の国際化に貢献する人材の育成

安全

- 地域防災力の強化に向けた自主防災組織の組織化支援を含めた各種取り組みの推進
- 登下校時の子どもの安全確保や特殊詐欺被害予防
- 地域に根ざした食育の意識醸成

歴史・文化

- 御所野遺跡の世界遺産への新規登録に向けた取り組みの推進
- 平泉の文化遺産を総合的に案内するガイダンス施設の整備
- 民俗芸能の保存・継承や後継者の育成

社会基盤

- 第5世代移动通信システム「5G」の整備促進
- AIやICTなど科学・情報技術の利活用に向けた取り組みの推進
- 自然災害に備えた洪水・土砂災害対策施設の整備

家族・子育て

- 結婚支援の機能強化
- 安心して妊娠・出産・子育てができる環境の整備
- ひとり親世帯に対応する総合相談支援機能の充実

居住環境・コミュニティ

- 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築
- 地域コミュニティの活性化に向けた取り組みの推進
- 岩手への移住・定住の促進
- 多文化共生の地域づくり

仕事・収入

- 地域経済を支える中小企業の振興
- ものづくり産業の一層の集積
- 国際定期便の持続・安定的な運航や観光産業の総合産業化
- 収益力の高い産地づくり、農林水産物の付加価値向上に向けた取り組みの推進

自然環境

- 森や川、海などの多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぐ取り組みの推進
- 循環型地域社会の形成に向けた取り組みの推進
- 再生可能エネルギーの導入促進

参画

- 女性や若者、高齢者、障がい者の活躍支援
- 市民活動や県民運動を促進するためのNPOなどの運営基盤強化
- 多様な主体の参画・連携・協力の推進

新しい時代を切り拓くプロジェクトの主な取り組み

ILCプロジェクト

国際リニアコライダー（ILC）の実現に向け、国民的な理解増進・普及啓発活動や道路・港湾などの利活用調査、外国人などの受入れ環境整備、未来のILCを担う人材の育成、加速器関連産業の振興などに取り組みます。



3つのゾーンプロジェクト



北上川パレープロジェクト

働きやすく、暮らしやすい先行モデルとなるゾーンの創造を目指し、県内中小企業の生産性向上や人材確保の支援、先端技術などを活用した地域課題の解決などに取り組むとともに、北上川パレーの魅力情報を発信します。



三陸防災復興ゾーンプロジェクト

三陸鉄道や復興道路など、交通ネットワークを活用した地域産業の振興を図ります。また、東日本大震災津波伝承館などを活用し、復興に力強く取り組む地域の姿や三陸地域の多様な魅力を国内外に発信することで、交流の活発化を図ります。



北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト

地域産業への先端技術導入による生産性の向上や、「北海道・北東北の縄文遺跡群」のPR活動、再生可能エネルギーを活用した地域活性化を進めます。また、産業人材を育成する拠点の強化などに取り組みます。

今年度はどんな事をするの？

「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現へ！

私たちの税金はどう活用されるの？

復興幸福希望予算



「復興幸福希望予算」って、どんな予算？

令和2年度の当初予算は、東日本大震災津波からの復興を力強く進めるとともに、県民の幸福度の向上を図る「いわて県民計画（2019～2028）」を軌道に乗せ、県民みんなが希望を持てる予算としました。

●予算のポイントは何？

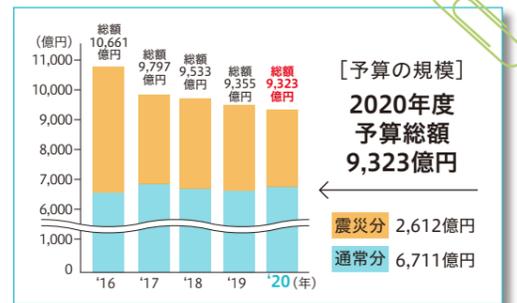
ポイントは次のとおりです。

① 東日本大震災津波からの復興と平成28年台風第10号災害、令和元年台風第19号災害からの復旧・復興に最優先で取り組みます。

② 「いわて県民計画（2019～2028）」のもと、県民の幸福度向上を図る10の政策分野に基づく施策を着実に推進します。

③ 「新しい時代を切り拓くプロジェクト」として、ILCの実現や、「北上川パレー・三陸・北いわて」の3つのゾーンプロジェクトに関する事業などを展開します。

④ Society 5.0の実現に向け、5Gをはじめとした情報通信技術の活用による地域課題解決のための事業を実施します。



いわて県民計画(2019~2028)に基づく令和2年度の主な施策

「いわて県民計画(2019~2028)」の2年目となる令和2年度は、復興に最優先で取り組みながら、計画に掲げた将来像の実現に向けて、さまざまな事業を進めていきます。

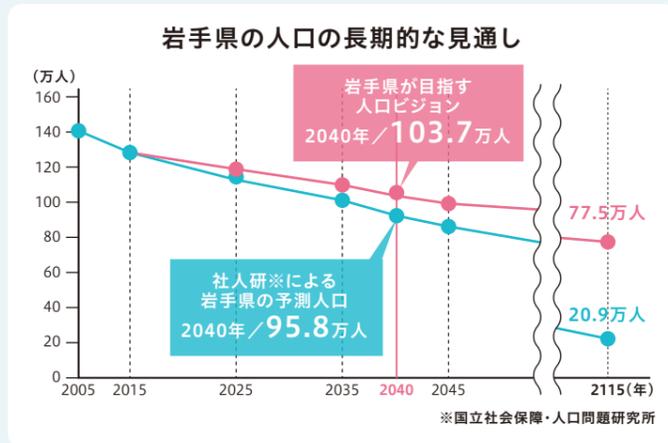
復興推進「より良い復興～4本の柱～」の施策

- I 安全の確保**
防潮堤などの津波防災施設、水門・陸こうの自動閉鎖システムなどの整備
災害に強い交通ネットワークの構築
- II 暮らしの再建**
こころのケア活動や生活相談の実施
生活再建やコミュニティ形成の支援
- III なりわいの再生**
水産資源の回復に向けた支援、漁業者などの人材の確保・育成
県産農林水産物の認知度向上に向けた取り組みの推進
- IV 未来のための伝承・発信**
復興の状況や復興支援に対する感謝の気持ちを伝える取り組みの推進

岩手で育てたい！
岩手て暮らしたい！
岩手とつながりたい！
岩手て働きたい！

ふるさと振興を進める4本の柱

県では、人口減少に歯止めをかけていくため「ふるさと振興」を進めていきます。ここがポイント！
これまでの3本の柱に加え、「岩手とつながる」を4本目の柱に加えて、生活の満足度アップを目指します。



みんなが 生きがいをもって 豊かに暮らす 岩手へ

第2期岩手県ふるさと振興総合戦略がはじまります

人口減に歯止めをかけ新しい人の流れを創出しよう



岩手県の人口は、1997年から減少を続けています。2019年は約123万人となり、ピークだった1985年と比較すると14%減少。国立社会保障・人口問題研究所の予測によると、2115年には約21万人まで落ち込むとされています。

人口減少の主な理由は、出生数の減少や、県外への転出の増加が挙げられます。これらの背景には、出産・子育てに要する出費の増加や、仕事と子育ての両立が困難であること、また、雇用情勢の悪化や首都圏との経済格差などがあると考えられます。

人口減少に歯止めをかけていくためには、こうした「生きにくさ」を「生きやすさ」に転換し、県民が暮らしやすく、さらに新たな人の流れを生み出す「ふるさと振興」を進めていくことが重要です。

一方で、全国的な東京一極集中の流れはむしろ加速しており、取り組みをより強化していくことが必要です。そこで、これまでの成果と課題などを踏まえた「第2期岩手県ふるさと振興総合戦略」を3月に策定。これまでの3本の柱である「岩手で働く」「岩手で育てる」「岩手で暮らす」に、新たに4本目の柱として「岩手とつながる」を加え、関係人口や交流人口の創出・拡大に向けた施策を展開していきます。県は、こうした取り組みを推進することで2040年に100万人の人口を確保することを目指します。

人口減少は国や県、市町村だけではなく、県民の皆さんの未来のこと。自分の身近な課題として、一緒に考え、取り組んでいきましょう。

1 岩手て働く

やりがいと、生活を支える所得が得られる仕事を創出し、岩手への新たな人の流れの創出を目指します。

戦略の展開

- 商工業振興戦略
- 観光産業振興戦略
- 農林水産業振興戦略
- ふるさと移住・定住促進戦略

施策推進目標

若者の仕事や移住に関する願いに応え、県外への転出超過を解消する社会減ゼロとともに、ものづくり産業や農林水産業などの振興による県民所得水準の向上を目指します。

数値目標

- 人口の社会増減：△4,370人(R1)⇒0人(R6)
- 国民所得に対する県民所得水準の乖離縮小：一人あたり／86.9(H29)⇒90.0以上(R4※)

※指標の元となる県民経済計算年報は、R6年版でR4年の数値です。

2 岩手て育てる

社会全体で結婚、妊娠・出産、子育てを支援し、安心して子どもを産み育てられる社会を目指します。

戦略の展開

- 若者の就労、出会い・結婚、妊娠・出産支援戦略
- 子育て支援戦略

施策推進目標

結婚や出産は個人の決定に基づくものであることを基本としつつ、若い世代の就労、出会い・結婚、妊娠・出産、子育ての願いに応え、出生率の向上を目指します。

数値目標

- 合計特殊出生率：1.41(H30)⇒1.58以上(R6)

3 岩手て暮らす

医療・福祉や文化、教育など豊かなふるさとを支える基盤の強化を進め、地域の魅力向上を目指します。

戦略の展開

- 魅力あるふるさとづくり戦略
- 文化スポーツ振興戦略
- 若者・女性活躍支援戦略
- 保健・医療・福祉充実戦略
- ふるさととの未来を担う人づくり戦略

施策推進目標

岩手に住みたい、働きたい、帰りたいという人々の願いに応えられる豊かなふるさと岩手をつくりあげます。

数値目標

- 生活満足度が高い人の割合の上昇：35.0%(R1)⇒35.0%を上回る(R6)
- 生活満足度が低い人の割合の低下：32.0%(R1)⇒32.0%を下回る(R6)

4 岩手とつながる

関係人口や交流人口の拡大を図り、岩手と多様な形でつながることのできる社会を目指します。

戦略の展開

- 関係人口創出・拡大戦略
- いわてまるごと交流促進戦略

施策推進目標

岩手に来たい、関わりたい、つながりたいという思いに応え、多様な形で、いつでも、どこでも、誰もが岩手とつながることのできる社会を目指します。

数値目標

- 関係人口及び交流人口に関連する指標の向上：現状値を上回る要素指標※数5/5(R6)

※要素指標：観光入込客数、グリーン・ツーリズム交流人口、ふるさといわて応援寄付件数、ホームページ閲覧数、SNSフォロワー数